

伊那市環境審議会 会議録要旨

会議名称	伊那市環境審議会
開催日時	令和5年7月25日（火） 10時00分～11時30分
開催場所	伊那市役所 第一委員会室（2階）
出席者	委員 9名（欠席3名） 事務局 6名
会議進行等	進行：市民生活部長 1 開会（市民生活部長） 2 あいさつ（会長） 3 副会長選出 4 協議事項（進行：会長、説明：事務局） (1) 第2次伊那市環境基本計画の進捗状況について (2) 伊那市環境報告書（令和4年度）について (3) その他 5 その他 6 閉会（市民生活部長）

【要旨】

2 あいさつ（会長）

本日は第二次伊那市環境基本計画の進捗状況、伊那市環境報告書（令和4年度）についての報告となり、内容についてご審議ご質疑いただくことになっている。環境問題は日々の私達の生活そのものから、地球全体に関係するところまで非常に多様である。伊那市の取り組みを俯瞰できるこの機会に、委員の皆様にはそれぞれの立場からご意見ご質問いただき、審議会が活発にとり行われることを期待する。

3 副会長選出

4 協議事項

(1) 第2次伊那市環境基本計画の進捗状況について

・事務局より説明

【委員】

COOL CHOICEは名称がデコ活に変わっているが、変更しないのか。

【委員】

デコ活はCO2削減に関する国民運動の愛称であり、COOL CHOICEとは違う。

【委員】

資料No. 1-2の中の個別目標1-1で2番目に記載されている農薬情報の適正使用の啓発ができなかったということだが、実際どういう啓発をする予定だったのか。

【事務局】

農薬や除草剤の河川流出が心配であり、特に農家に啓発する予定だったが、それができなかったということ。

【委員】

農薬品の適正使用は他に行政的な規制はないのか。

【事務局】

農薬の使用量を守るようにという周知をすることはあると思うが、地方自治体が数字の基準で規制をすることはない。

【委員】

農薬は大きな問題だと思っている。水に農薬が混じっていると、我々が水を飲んだ際に農薬も人体に入り、将来にわたってずっと残る。

次に河川の水質検査をしているが、結果はどうだったのか。

【事務局】

この後の環境報告書で説明する。

【委員】

農薬が高くなり、できるだけ有機農法に転換する取り組みを進めているため、令和5年度は数値が改善されると思う。

【会長】

どの程度統計数値が取れているか難しい。統計の解析分析にデータがないと議論してもなかなか進まない。農薬も様々な種類があり、全て一律に議論する話でもない。分解する

前の期間が要るのか、分解した後にはどれだけ環境負荷あるいは人体の影響があるのか等々見たいので類型化し、評価しなければならない。従来のやり方ではかなり難しく、予算づけや調査費をつけなければならない。国で農薬登録をし、それを踏まえた上で標準的な使用量や上限がある。議論するのであれば専門的な部会を作って議論していくべき。

【委員】

家庭用の除草剤も売られており、無意識で散布すれば当然使用量は超える。伊那市が水質などの自然環境を強く訴えるならば、重点施策の一つでも考えた方が良い。

【委員】

資料No. 1-1のなかの個別目標1-2で河川清掃の実施とあるが、事業者等がボランティア活動で実施するものとあるが、何を想定しているのか。事業者と連携を深めて進めた方が良いのでは。

【事務局】

河川清掃の実施は、三峰川や天竜川の掃除をボランティア活動で行なっていただいている団体と協力をしながら取り組んでいく回数を目標値としている。関係を深めながら取り組みを進めていきたい。

【会長】

データとして蓄積し、現状を捉えていくべき。行政の活動として継続してほしい。

現在のKPIは数値目標を明記し、それに対する達成率を算出し、自己評価という流れとなっている。したがって、ボランティアを対象とした場合のKPIの評価は、努力しても相手に乗ってこなければ努力しても報われない面がある。その中でこの数値目標はどういう意味を持つのか。コロナの影響もあると思うが、どうだったか。

【事務局】

コロナの影響で今までやっていただいていた団体が実施できなかった。

【委員】

アレチウリはどのような方法で駆除しているか。駆除できた区域等実績があるか。

【事務局】

種ができる前に引き抜く方法で駆除している。空き缶拾いや環境美化活動の際に、市内で一斉に効果的な時期に実施できるよう、自治会に駆除の協力を依頼している。実施状況を報告いただいて、参加人数や実施の有無を把握している。

【会長】

根絶は無理というのが正直なところで、ほかの種類でも根絶された例がない。現実的に考えると、新たな繁殖地を出さないことが重要。定着すると絶滅はかなり厳しいことを周知するべきで、そういった取り組みも今後さらに必要である。

【委員】

資料では目標別の目標値や実績値が並んでいるだけであり、全体像がイメージしにくい。全体像の中でどのような位置づけになっているかがわかればよい。また、太陽光発電設備や省エネ家電等導入による脱炭素効果の計算方法について知りたい。

資料No. 1-1の個別目標3-2で1人1日当たりのごみ排出量が示されているが、これは一般家庭から排出されるごみの量と思われる。県では1人当たりのゴミ排出量は800グラムと公表しているが、これは事業系も含めた数字である。市と県で基準が違っているので、備考欄で家庭系のみ平均値ということがわかるように次回以降検討をお願いする。

【事務局】

CO2削減量の59,000tは環境基本計画の第2章に掲載している区域施策編の目標値になっている。この目標は国がカーボンニュートラルを宣言する前に設定したものであり、区域施策編を具体的に進めるための具体例を示した、2050年カーボンニュートラル行動計画において、国が46%以上削減することを目標にしたことを受け、改めて数値目標を設定している。

1人当たりのごみ排出量については家庭系の平均値を出している。いただいたご意見を参考に進めていく。

【会長】

このほか質問がある場合は後ほど文書で提出いただき、後日事務局と中身について検討する。

項目が多い場合には事前に委員からの質問事項を全部集めてから、それに対する回答一覧を資料として示すやり方もあるので、今後事務局で検討してほしい。そのため、資料は早め(1か月ほど前)に委員に届くように手配してほしい。

資料1-3, 1-4を見ると、木質バイオマスの導入量が頭打ち傾向にみられるがどうか。

【事務局】

計画策定時の設備導入の想定の中で、規模の大きい木質バイオマス発電所や有機バイオマス発電所の建設予定があり、現状それが進んでいないということで進捗が芳しくない

いう背景がある。環境省からの交付金を活用する令和8年までの事業の中に、もう少し規模の小さい木質バイオマス発電を公共施設に導入する計画がある。目標値に近づけられるよう、小型の木質バイオマス発電の導入のほか、ペレットストーブや薪ストーブの補助率を上げ、設置台数を増やしていく予定である。

【会長】

バイオマス発電は慎重にやるべきで、使い方に困るバイオマスをエネルギーに転換することが基本。

【委員】

薪ストーブの普及は良いが、薪が不足する状況になる可能性もある。ただ使うだけでなく、森林を再生していくことを含めた計画が必要。ペレットストーブはほとんどの学校に入っているのか。

【事務局】

市には50年の森林ビジョンという、森の循環を考え、50年後の森の姿を描いた計画があり、それに沿って森林も更新していく。育ちすぎた木はCO2を吸収しないため、適正に伐採をし、そこに新たに植樹して、森を育てていくという計画に沿って木質バイオマスを推し進めていく予定である。学校への設置は、耐用年数が来た石油ストーブから徐々に更新していく計画であるため、未設置の学校もある。

(2) 伊那市環境報告書（令和4年度）について

- ・事務局より説明

【委員】

ペットの不適正な飼育の問題とは何か。

【事務局】

ペットの糞害や車への被害、多頭飼いについて苦情が寄せられた。

【委員】

資源化率が下がっているがどう捉えているか。

【事務局】

可燃ごみや不燃ごみの中に資源化できるごみも混ざっているのは事実である。それを減らすことができれば焼却等の処理量も減り、資源化率も上がってくると考える。可燃ごみや不燃ごみから資源化できるものを分別してもらうような啓発が必要。

【委員】

近年、業者からのダイレクトメールの量が以前より多い。名前が書いてあるものがほとんどなため古紙として出しづらく、結果可燃ごみとして処分してしまっている。そういう家庭も多いのではないかと思う。

【会長】

ゴミの問題についても、どこまでがコロナの影響でどこが別の要因かが判断しづらい。データを見ると可燃ゴミの量は多くなっているが、具体的な対策はこれから考えることになると思う。

【委員】

小学校4年生対象の子どもエコツアーは、将来的なことを考えると非常に有効な学びの場である。子供たちに自然を大事にすること、環境について考えていくことのきっかけ作りが、副読本を含めてエコツアーで提示されている。4年生の課外学習の場としてもちょうどよく、この企画は維持してほしい。中学校3年生でも環境教育を理科の授業で位置づけており、個人が興味を持ったテーマを設定し、追求できる「総合的な学習の時間」が中学校で保障されている。小学校4年生の副読本を深掘りした学びが得られる、中学生対象の教材を提供してもらいたい。伊那市の施策が1枚のシートでも適切にわかるものがあれば、理科の授業の中で少しでも話題に触れて、伊那市の取り組みの素晴らしさに触れられると思う。

【会長】

全くその通りだと思う。初等教育から繋げて物事を考えることは非常に大事。大学としても協力できることがあれば相談してほしい。

【委員】

資源化して得た金銭はどのように有効活用されているのか。

【事務局】

容器包装リサイクル協会に持ち込んで再資源化している。古紙は売れたということになれば、収集業者から伊那市に収入として入ってくることになっている。物によってはお金にならないということもある。

【委員】

リサイクル活動によって得たお金が市民に返ってきていることをアピールすれば、もっと活動も増えると思う。

(3) その他

- ・事務局より説明

5 その他

6 閉会